

新小岩幼稚園・未就園児クラス

アドバイザー 猪之鼻晴子



## 『準備の時期などない』

先日幼稚園で臨床発達心理士の岩端翔先生が講演をしてくださいました。その中で一番心に響いたことばが「人生に準備期間などない」ということでした。乳児期は保育園に入るための準備、保育園や幼稚園は小学校の準備、小学校は中学校は高校受験の、高校は大学受験の準備期間でしょうか。学生時代は就職への準備期間でしょうか。結婚は子育ての、子育ては老後の準備期間でしょうか。いつも準備をしてどこに向かっているのでしょうか。

岩端先生は「大人も子どもも今を生きるひとつの人間」とおっしゃいました。

保育園に預けるためにおむつを外すわけではないし、  
幼稚園に預けるためにひとりでたべられるようになるわけでもないし  
小学校で困らないために字を覚えるわけでもないし  
立派な高学年になるために低学年を過ごすわけでもないし  
高校受験に有利だからと部活を頑張るわけでもないし  
大学受験のために高校の授業を受けるわけでもないし  
就職の履歴書に書くために大学に行くわけでもないし  
結婚の条件のために会社を選ぶわけでもないし  
月曜日の準備のために日曜日があるわけでもないし  
そういう準備をさせるために子どもを産んだわけでもないし

今小学校6年の三男が小学校の間ずっと野球をやっていて、私は疑いもなく中学校も高校も野球をしていくのだろうと思っていました。高校野球をやるなら、では中学校はどこに行ったらいいのか？と逆算して考えていました。しかし三男は「野球はやるかもしれないし、他の事をやるかもしれない。中学は近い方がいい」と言います。ハッと、そうだ、私の事じゃなく、中学に行くのはこの子なのだ。とまた思い知らされました。小学校でやった野球も準備などではなく、この子にとっては、毎回毎回完結したものの連続だったのだ、と。5人目の子にも、懲りずにまだ期待したりガッカリしたりをくりかえしています。

子どもたちは「今」を生きています。  
本当はおとなも「今」を生きていいのだと思います。  
ずっと「今」を生きていたら「今」が続いてちゃんと自分の道は残っていくと思います。

ついつい「そんなことをしていると・・・」と言ってしまいますが、  
子どもがちゃんと「今」を生きていくこと自体が本当の意味で「明日も楽しみ」  
と思える一番の準備なのかもしれません。

以下はイギリスの哲学者 アラン・ワッツのことばです。

あなたは「今」を生きていますか？

君が初めて学校に行った時のことを覚えているかい？

幼稚園へ行ったよね。

幼稚園っていうのは一年生になるための準備だった。

その後、2年生、3年生、4年生へと進学して行った。

そして君は高校生になった。  
人生にとって大きな節目とも言える時代だ。

高校では、よりよい成績をおさめ、大学に合格できるようにかなりのプレッシャーがかけられる。

そして大学に行ったら、卒業してちゃんとした社会人になるためにつきから次へとやることがあり、めでたく、晴れて社会人になれたところで

今度は成功しなくては・・・  
その道を極めなくては・・・と  
頑張り続けることになるのだ。

つまり君の前にはいつまでものぼりつづけなくてはならない山が存在し続けるのだ。

そしてある日、君が人生の中盤40～45才になった頃

突如目が覚める

なんてこった！気がついたらこの年だ。

よくよく考えるといつも同じようなことを感じてきたな。  
実際、だまされた気がしないでもない。

我ながらバカらしくなる。いつも何かのために生きて  
ずっと「今」を生きてこなかったなんて！

そうやって先のことを考えて将来のことを計画しても役には立たない。  
なぜなら、その時が来たら、それは「今」となりその時、君はそこにはいないからだ。  
君はその時もまた決してやってくることはないまた次の未来に生きているからだ。

つまり、そんな感じで人は「今この瞬間」の行動がもたらす恵みを受け取ることも  
できないし、喜ぶこともできないでいるのだ。

「今この瞬間」に100パーセント生きられるまで  
本当の意味で君は生きることができないのだ。

ご意見・ご感想をぜひお聞かせください。

harukoinohana1717@ezweb.ne.jp